

2010年京都府感染症発生動向調査 (患者発生動向)

— 定点把握感染症 —

中嶋 智子 奥村 真友美 柳瀬 杉夫

Annual Report of Infectious Disease Surveillance from Sentinel Hospitals in Kyoto Prefecture, 2010

Satoko NAKAJIMA Mayumi OKUMURA Sugio YANASE

京都府内の感染症発生動向調査の定点把握感染症について、2010年の第1週から52週の発生動向の概要を報告した。2010年の年間定点あたりの報告数は感染性胃腸炎321人、水痘59人、流行性耳下腺炎47人、手足口病43人、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎40人、インフルエンザ38人の順に多かった。基幹病院定点報告では、マイコプラズマ肺炎4人、無菌性髄膜炎1人、細菌性髄膜炎1人、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症105人の報告があった。性感染症定点報告では、性器クラミジア感染症は444人(定点あたり19.3人)、性器ヘルペスウイルス感染症134人(定点あたり5.8人)、尖圭コンジローマ48人(定点あたり2.1人)、淋菌感染症は81人(定点あたり3.5人)の報告があった

キーワード：京都府感染症発生動向調査、定点把握感染症

key words：Kyoto prefectural infectious disease surveillance, Notifiable infectious diseases from sentinel clinics

はじめに

1999年4月から、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)」の施行により、感染症発生動向調査事業が実施されている。京都府では、京都府保健環境研究所内に感染症情報センターを設置し、医療機関から保健所に報告された感染者の発生動向情報を集計し、解析した結果を毎週公開している*1。

感染症法では五類感染症のうち、25の感染症が定点把握感染症と定められている。各地域の人口割合に応じて指定された定点(指定届出医療機関)から、これら定点把握感染症の患者数が週単位、あるいは月単位で保健所に報告され、地域の感染症の流行状況が迅速に把握できるサーベイランスとなっている。

今回、2010年第1週から52週までに報告され、2011年3月までに確定した定点把握疾患感染症の感染者情報をもとにその概要をまとめ、報告する。

材料と方法

感染症発生動向調査システム(NESID, National Epidemiological Surveillance of Infectious Diseases)に集計され、2011年3月までに確定した2010年第1週から52週までの定点把握感染症の情報を使用した。インフルエンザ定点報告ではシーズンの流行を明らかとするため、一部で2011年21週までのデータを使用した。指定届出医療機関(定点)は、把握対象感染症によりインフルエンザ定点、小児科定点、

眼科定点、基幹病院定点及び性感染症(STD)定点の5種類に分類されている。京都府の保健所別の定点数の一覧を表1に示した。週単位でインフルエンザ定点からはインフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く)、小児科定点からは咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発性発しん、百日咳、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎、RSウイルス感染症、眼科定点からは急性

表1. 京都府の指定届出医療機関(定点)一覧

保健所名	定点種別				
	インフル エンザ	小児科	眼科	基幹病 院	STD
乙訓	7	4	1	1	1
山城南	5	3	1	1	1
中丹西	5	3	1	1	1
山城北	17	10	3	1	3
南丹	9	5	1	1	2
中丹東	8	5	0	0	1
丹後	5	4	1	1	1
京都市					
北	7	4	1	0	1
上京	5	3	1	0	1
左京	6	3	1	0	1
中京	5	3	2	1	2
東山	3	2	0	0	1
山科	7	4	1	0	1
下京	3	2	0	0	1
南	5	3	0	0	1
右京	8	5	1	0	1
伏見	11	7	2	0	2
西京	7	4	1	0	1
京都市以外	56	34	8	6	10
京都市	67	40	10	1	13
京都府	124	75	18	7	23

2010年4月から京都市保健所左京保健センター管内のインフルエンザ定点と小児科定点数が1定点ずつ減となり表のとおりとなった。

(平成23年7月31日受理)

*1 京都府感染症情報センターホームページ

<http://www.pref.kyoto.jp/idsc/>

出血性結膜炎、流行性角結膜炎、細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、基幹病院定点からはマイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎（オウム病を除く）の発生が報告され、月単位でSTD 定点からは性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症、基幹病院定点からはメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の発生が報告されている。報告数は、当該週あるいは月に報告があった定点（患者ゼロ報告を含む）数で患者数を割り戻して定点あたり報告数とした。但し、京都市内と年間の定点あたり報告数については表1の定点数で割り戻し、定点あたり報告数として示した。

結果と考察

1. インフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点報告

毎週報告がある感染症別の定点あたりの患者報告数を2010年の週ごとに表2に示した。2010年の年間定点あたりの報告数は感染性胃腸炎321人、水痘59人、流行性耳下腺炎47人、手足口病43人、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎40人、インフルエンザ38人の順に多かった。2008年は感染性胃腸炎292人、インフルエンザ81人、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎67人、水痘51人、手足口病43人の順で報告が多く¹⁾、2009年はインフルエンザ547人、感染性胃腸炎240人、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎42人、水痘40人、流行性角結膜炎21人の順で多かった²⁾。2010年に多かった定点把握感染症の最近10年間の発生推移を全国の報告値とともに図1.に示した。

2010年は冬季の感染性胃腸炎が2008,2009年に比べると比較的大きな流行となった。最近は、夏季と冬季の流行

が明確となり、特に冬季の流行の大きさは年次によって大きく異なる傾向がみられた。表3に感染性胃腸炎の小児科定点あたりの年齢別報告数を示した。4歳以下の患者が全体の約半数を占め、10歳未満で約80%となり、小児科の受診年齢層と一致する可能性もあるが、小児若年層が中心であった。また、小児科定点からの報告であるが成人の割合が京都府12%、全国9%を示していることから、小児特有の感染症ではないことが明確である。表4に保健所別の小児科定点あたりの報告数を示し、図2.に京都府管轄保健所別の2010年の週別推移を示した。保健所管内ごとに報告数が大きく異なり、感染性胃腸炎は地域により流行の大きさに差があり、その流行時期もずれることが確認されたが、季節消長ではおおむね一致していた。

水痘の発生は年ごとの患者数に大きな変動はなく、毎年冬季から春季にかけて流行がある（図1）。2010年は水痘が定点あたり報告数の上位を示したことから、定点把握感染症については、2010年は比較的これら感染症全般の流行が低調であったことを示した。水痘は患者の90%以上が4歳以下であった。

流行性耳下腺炎は小児を中心に流行する感染症であるが、その流行は約5年周期で上下している様相がみられる（図1）。2010年は流行性耳下腺炎の流行時期にあたり、患者報告数が多かったが、2011年も引き続きやや多い傾向が継続すると考えられる。2010年は4歳以下で46%、5～9歳で46%の発生があり10歳未満が多かった。小児科定点報告であるが20歳以上の報告が2%（全国値でも2%）であることから、本感染症が流行期にあるということについて、成人への注意喚起も必要かもしれない。

手足口病は夏に流行のピークがみられる小児の感染症であるが、2010年は比較的患者数が多い年となり、2008

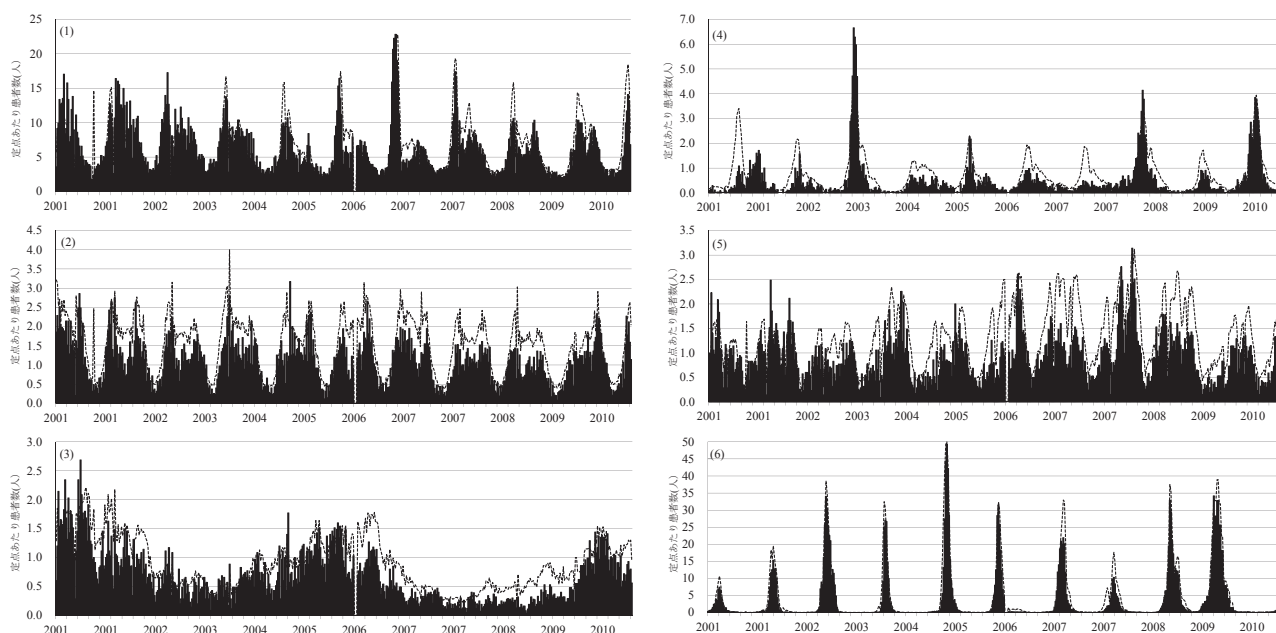


図1. 発生が多い定点把握感染症の定点あたり患者報告数の発生推移

(1) 感染性胃腸炎、(2) 水痘、(3) 流行性耳下腺炎、(4) 手足口病、(5) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(6) インフルエンザ
 ■：京都府定点あたり患者数、---：全国定点あたり患者数

表 2. 2010 年京都府 定点把握感染症の定点あたり患者報告数の週別推移

週	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群*	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
1	8.22	0.27	0.07	0.36	6.19	1.36	0.05	0.04	0.19	0.00	0.01	0.58	0.00	0.28
2	6.77	0.43	0.07	0.43	8.72	0.77	0.01	0.03	0.43	0.03	0.03	0.61	0.06	0.22
3	7.04	0.54	0.09	0.72	9.51	1.15	0.04	0.01	0.36	0.00	0.04	0.31	0.00	0.39
4	4.06	0.68	0.03	0.73	10.35	1.14	0.12	0.07	0.34	0.00	0.01	0.62	0.06	0.11
5	2.44	0.83	0.04	1.12	9.92	1.15	0.05	0.05	0.45	0.00	0.04	0.45	0.00	0.28
6	1.37	0.91	0.05	1.14	9.95	1.24	0.11	0.04	0.26	0.00	0.00	0.86	0.00	0.39
7	0.91	0.52	0.09	1.12	10.20	1.28	0.07	0.07	0.28	0.00	0.01	0.87	0.00	0.39
8	0.48	0.53	0.19	1.12	9.65	1.59	0.16	0.07	0.37	0.00	0.04	0.69	0.00	0.11
9	0.49	0.41	0.07	0.96	8.43	1.01	0.27	0.08	0.34	0.01	0.04	0.86	0.00	0.06
10	0.37	0.33	0.07	1.09	7.25	1.35	0.53	0.01	0.35	0.00	0.01	0.96	0.00	0.11
11	0.20	0.27	0.04	1.27	7.73	1.15	0.34	0.07	0.23	0.01	0.05	0.68	0.00	0.33
12	0.12	0.15	0.01	0.59	5.16	1.36	0.20	0.11	0.29	0.00	0.03	0.99	0.00	0.39
13	0.11	0.09	0.04	1.08	5.61	1.78	0.32	0.03	0.38	0.00	0.05	0.99	0.00	0.44
14	0.02	0.04	0.00	0.67	6.01	1.19	0.47	0.05	0.47	0.00	0.07	1.29	0.00	0.44
15	0.02	0.08	0.07	1.00	6.93	1.33	0.47	0.05	0.31	0.03	0.05	0.91	0.00	0.50
16	0.06	0.09	0.03	1.07	8.48	0.83	0.68	0.08	0.47	0.00	0.12	0.79	0.00	0.39
17	0.08	0.00	0.08	1.30	8.89	1.26	0.70	0.11	0.29	0.00	0.03	0.95	0.00	0.28
18	0.01	0.00	0.03	0.56	6.23	1.36	0.48	0.05	0.21	0.00	0.10	0.71	0.00	0.06
19	0.06	0.01	0.09	1.35	9.40	1.60	0.57	0.13	0.25	0.00	0.08	1.44	0.00	0.28
20	0.02	0.01	0.11	1.13	8.91	1.72	1.55	0.24	0.43	0.00	0.35	1.08	0.00	0.28
21	0.10	0.00	0.15	0.89	7.76	2.33	2.37	0.09	0.35	0.03	0.33	1.17	0.00	0.33
22	0.19	0.04	0.05	1.04	7.19	2.04	2.85	0.16	0.31	0.00	0.35	1.37	0.00	0.44
23	0.10	0.01	0.31	1.12	6.37	2.21	2.24	0.13	0.44	0.03	0.43	0.97	0.00	0.50
24	0.09	0.00	0.18	1.15	6.07	1.85	2.15	0.31	0.32	0.00	0.57	1.35	0.00	0.33
25	0.00	0.00	0.28	0.95	4.18	1.82	2.92	0.24	0.43	0.00	0.85	1.11	0.00	0.33
26	0.02	0.00	0.16	0.76	4.15	1.29	3.85	0.25	0.35	0.05	1.73	1.35	0.00	0.39
27	0.01	0.00	0.17	0.77	3.67	1.32	3.76	0.17	0.41	0.03	2.39	1.35	0.00	0.33
28	0.03	0.03	0.15	0.40	3.49	1.17	3.35	0.32	0.45	0.01	3.03	1.03	0.00	0.41
29	0.00	0.00	0.08	0.57	2.72	1.05	2.93	0.24	0.45	0.04	1.77	1.31	0.00	0.28
30	0.00	0.00	0.25	0.23	3.19	1.04	2.28	0.12	0.52	0.03	1.92	1.41	0.00	0.41
31	0.00	0.01	0.07	0.47	3.19	0.76	1.72	0.13	0.37	0.01	1.20	0.96	0.00	0.33
32	0.06	0.01	0.15	0.15	2.22	0.67	1.16	0.08	0.56	0.04	0.79	0.79	0.00	0.44
33	0.02	0.01	0.08	0.32	2.30	0.42	0.55	0.22	0.28	0.04	0.43	1.01	0.00	0.88
34	0.01	0.03	0.07	0.43	2.88	0.36	0.76	0.20	0.61	0.00	0.35	0.97	0.06	0.59
35	0.00	0.03	0.08	0.40	3.24	0.21	0.61	0.24	0.48	0.00	0.39	0.67	0.06	0.83
36	0.02	0.03	0.18	0.32	3.18	0.34	0.35	0.28	0.54	0.00	0.32	1.05	0.00	1.11
37	0.00	0.03	0.17	0.39	3.21	0.29	0.40	0.25	0.43	0.03	0.27	1.03	0.00	0.88
38	0.04	0.03	0.05	0.30	2.09	0.31	0.28	0.14	0.28	0.00	0.18	0.61	0.00	0.94
39	0.03	0.03	0.08	0.39	2.70	0.34	0.14	0.09	0.57	0.01	0.14	0.91	0.06	0.89
40	0.03	0.04	0.08	0.59	2.50	0.45	0.20	0.24	0.31	0.00	0.09	0.91	0.06	1.06
41	0.06	0.05	0.05	0.43	2.75	0.51	0.13	0.25	0.43	0.00	0.08	0.83	0.00	0.50
42	0.01	0.08	0.07	0.37	3.03	0.41	0.15	0.31	0.47	0.03	0.08	1.03	0.00	0.44
43	0.01	0.08	0.07	0.37	3.03	0.41	0.15	0.31	0.47	0.03	0.08	1.03	0.00	0.44
44	0.05	0.27	0.07	0.59	3.24	0.39	0.12	0.23	0.31	0.00	0.12	0.58	0.00	0.72
45	0.15	0.37	0.11	0.72	4.85	1.05	0.04	0.28	0.39	0.01	0.04	0.71	0.00	0.83
46	0.12	0.26	0.09	1.12	5.27	0.62	0.05	0.27	0.36	0.00	0.07	0.58	0.00	0.39
47	0.28	0.35	0.15	0.71	6.97	1.51	0.05	0.40	0.31	0.00	0.04	0.69	0.00	0.61
48	0.37	0.47	0.23	1.34	9.82	2.24	0.03	0.41	0.43	0.00	0.03	0.86	0.00	0.22
49	0.49	1.00	0.16	1.16	11.54	1.76	0.00	0.28	0.45	0.00	0.03	0.92	0.00	0.22
50	0.76	1.15	0.12	1.27	13.89	2.09	0.04	0.43	0.35	0.01	0.00	0.77	0.00	0.29
51	1.15	1.29	0.21	1.17	12.96	1.57	0.03	0.40	0.33	0.01	0.07	0.79	0.00	0.39
52	1.20	0.66	0.22	0.38	6.50	1.09	0.03	0.15	0.20	0.00	0.04	0.55	0.00	0.22
計	38.00	12.45	5.56	39.81	321.47	59.19	42.73	8.99	19.53	0.52	19.29	47.03	0.33	22.56

* : A群溶血性レンサ球菌咽頭炎, 計 : 総報告数を表1の定点数で割り戻し、年間の定点あたり報告数とした。

表 3. 感染性胃腸炎の小児科定点あたりの年齢別報告数

年齢階級区分	京都府			全国		
	総数	男性	女性	総数	男性	女性
～5ヶ月	3.2 (1%)	1.7 (1%)	1.6 (1%)	4.1 (1%)	2.2 (1%)	1.9 (1%)
～11ヶ月	18.8 (6%)	10.1 (6%)	8.6 (6%)	25.4 (6%)	13.6 (6%)	11.8 (6%)
1歳	44.3 (14%)	23.8 (14%)	20.5 (13%)	61.1 (15%)	33.0 (15%)	28.1 (14%)
2歳	35.2 (11%)	18.8 (11%)	16.4 (11%)	45.8 (11%)	24.4 (11%)	21.4 (11%)
3歳	32.1 (10%)	17.5 (10%)	14.5 (10%)	41.6 (10%)	22.3 (10%)	19.3 (10%)
4歳	28.9 (9%)	15.6 (9%)	13.4 (9%)	39.6 (10%)	21.0 (10%)	18.6 (9%)
5歳	24.7 (8%)	13.5 (8%)	11.2 (7%)	34.5 (8%)	18.6 (9%)	15.9 (8%)
6歳	20.8 (6%)	11.9 (7%)	8.9 (6%)	27.0 (7%)	14.5 (7%)	12.5 (6%)
7歳	16.1 (5%)	8.9 (5%)	7.2 (5%)	20.5 (5%)	11.2 (5%)	9.3 (5%)
8歳	12.7 (4%)	7.0 (4%)	5.7 (4%)	16.8 (4%)	9.1 (4%)	7.6 (4%)
9歳	11.0 (3%)	6.3 (4%)	4.7 (3%)	13.5 (3%)	7.4 (3%)	6.1 (3%)
0～4歳*	163 (51%)	87.6 (52%)	75.0 (49%)	218 (53%)	116 (55%)	101 (52%)
5～9歳*	85.3 (27%)	47.6 (28%)	37.7 (25%)	112 (27%)	60.9 (29%)	51.3 (26%)
10～14歳	28.6 (9%)	15.4 (9%)	13.2 (9%)	33.8 (8%)	19.2 (9%)	14.7 (7%)
15～19歳	6.9 (2%)	3.7 (2%)	3.2 (2%)	7.2 (2%)	3.6 (2%)	3.7 (2%)
20歳以上	38.0 (12%)	14.7 (9%)	23.3 (15%)	38.3 (9%)	13.4 (6%)	24.9 (13%)

京都府の年間の合計は、定点数を75として、1定点あたり1年間の患者報告数を示した。

*：データ再掲

表 4. 2010年感染性胃腸炎の小児科定点あたりの保健所別報告数

		総数	男性	女性
京都府管轄保健所	乙訓	623	341	282
	山城南	11.0	6.0	5.0
	中丹西	358	189	169
	山城北	291	152	139
	南丹	397	205	192
	中丹東	390	211	179
	丹後	163	82.5	80.5
小計	327	173	153	
京都市保健所	北	116	60.3	55.3
	上京	226	125	101
	左京	171	67.0	74.3
	中京	339	182	157
	東山	710	378	332
	山科	159	90.0	69.3
	下京	25.5	13.0	12.5
	南	647	338	309
	右京	203	105	98
	伏見	400	202	198
西京	645	338	307	
小計	327	168	153	

年並の流行があった(図1)。患者は1,2歳を中心に4歳以下が73%であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、毎年小児科定点からの報告数が多い感染症のひとつであるが、昨年はやや少ない報告数であった(図1)。患者は4歳以下が28%、5～9歳が51%であった。

インフルエンザは2009年の新型インフルエンザ(A/H1N1)(2011年4月から季節性インフルエンザとなり現在はインフルエンザH1N1(2009)と呼ばれている)の流行のピークが例年5-10週あたりの季節性インフルエンザと異なり、47-48週と非常に早い時期となり、流行期間も1.5倍程度伸長がみられた²⁾ため、2010年始めの報告数が少なかった。加えて、2010-2011年シーズンは、注意報のみのやや弱い流行で流行時期も平年並みであった

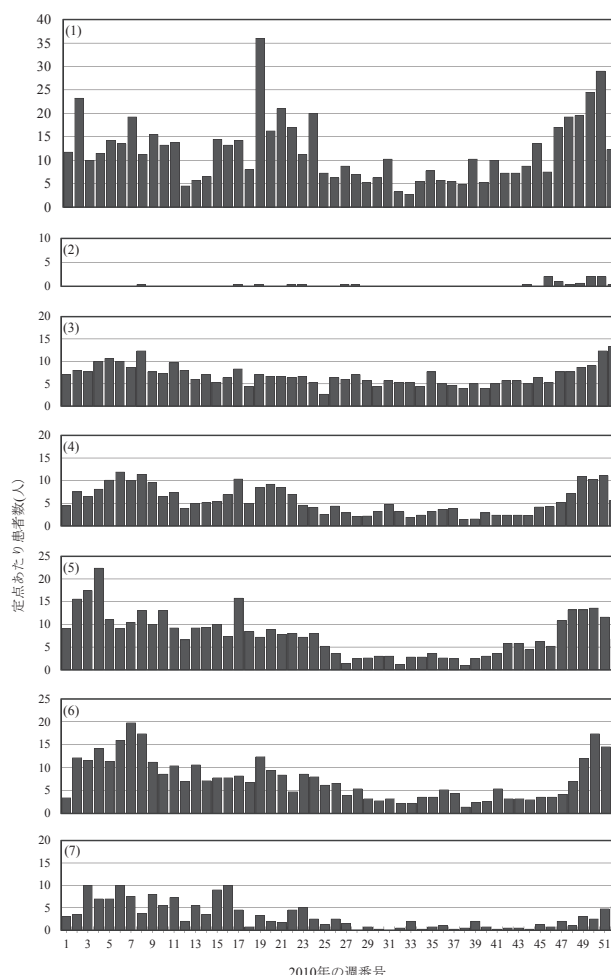


図 2. 2010年感染性胃腸炎の小児科定点あたりの保健所別週別の報告数の推移

(1) 乙訓 (2) 山城南 (3) 中丹西 (4) 山城北
(5) 南丹 (6) 中丹東 (7) 丹後

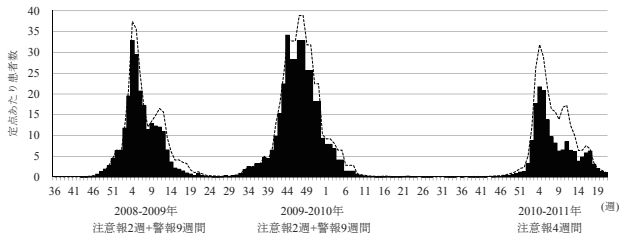


図3. インフルエンザの流行シーズンの推移(最近3シーズン)
 ■：京都市定点あたり患者数、---：全国定点あたり患者数
 定点あたり患者数は2011年21週までの数値を用いた。

め(図3)、2010年の年単位のインフルエンザ報告数は非常に少ない結果となった。

比較的患者報告数が多い定点把握感染症では、京都府の発生動向調査結果は国のそれと同期した変動を示し、適切に実施されていることが確認でき、京都府で流行する感染症の多くは、全国的な規模でも流行していることが予想できた(図1)。前報¹⁾で週あたり定点あたり患者数の最大値が0.2人を下回る感染症では京都府のみの結果では、地域の流行の推移が感知できるサーベイランスとならないことを示した。2010年に全国的に伝染性紅斑が流行し、図4.に示すように百日咳や急性出血性結膜炎とは異なり、京都府でも流行把握が可能なサーベイランスとなった。

2. 基幹病院定点報告

基幹病院定点から報告される7感染症中、マイコプラズマ肺炎4人(5才男性、4才女性、3才女性、1才女性)、無菌性髄膜炎(4才、女性)と細菌性髄膜炎(2才女性、

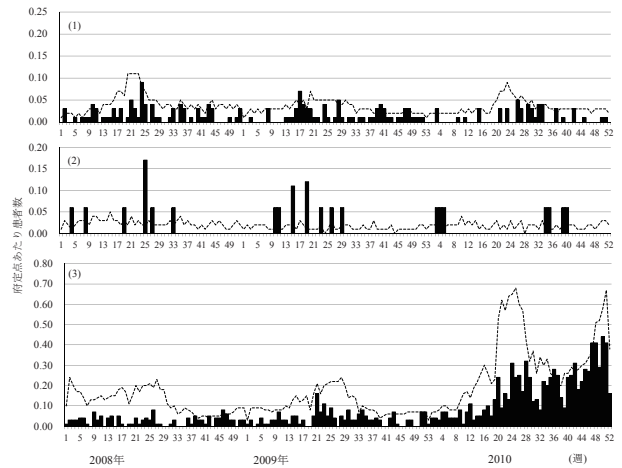


図4. 報告数が少ない定点把握感染症流行の推移(2008-2010年)

(1) 百日咳 (2) 急性出血性結膜炎 (3) 伝染性紅斑
 ■：京都市定点あたり患者数、---：全国定点あたり患者数

が各1人であった。メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症105人の報告があった。メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の発生状況を男女別年齢階級別に表5に全国の集計結果とともに示した。患者報告はすべて、南丹・中丹西・丹後保健所管内の定点からで、乙訓・山城南・山城北と京都市の4定点からの報告はなかった。男性の発生は女性の約2.5倍で、乳幼児あるいは高齢者に多く、全国の傾向と一致していた。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症と薬剤耐性緑膿菌感染症の発生はなかった。いずれの疾患も全国的には、乳幼児と高齢者に多く、男性の報告が多かった。

表5. 2010年京都府基幹病院定点からのメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症報告(男女別、年齢区分別)と全国集計の比較

	京都府				総報告数		全国				総報告数	
	男性	女性	男性	女性			男性	女性	男性	女性		
0才	3	4%	3	8%	6	6%	472	3%	425	5%	897	4%
1~4才	0	0%	0	0%	0	0%	365	2%	318	4%	683	3%
5~9才	1	1%	0	0%	1	1%	187	1%	118	1%	305	1%
10~14才	0	0%	0	0%	0	0%	71	0%	55	1%	126	1%
15~19才	0	0%	0	0%	0	0%	80	1%	37	0%	117	0%
20~24才	1	1%	0	0%	1	1%	88	1%	87	1%	175	1%
25~29才	0	0%	0	0%	0	0%	119	1%	99	1%	218	1%
30~34才	0	0%	0	0%	0	0%	110	1%	119	1%	229	1%
35~39才	1	1%	0	0%	1	1%	169	1%	120	1%	289	1%
40~44才	0	0%	1	3%	1	1%	205	1%	105	1%	310	1%
45~49才	1	1%	0	0%	1	1%	237	2%	116	1%	353	1%
50~54才	3	4%	0	0%	3	3%	344	2%	158	2%	502	2%
55~59才	6	9%	1	3%	7	7%	578	4%	274	3%	852	4%
60~64才	3	4%	1	3%	4	4%	1040	7%	451	5%	1491	6%
65~69才	4	6%	3	8%	7	7%	1303	9%	553	6%	1856	8%
70才以上	44	66%	29	76%	73	70%	9260	63%	5972	66%	15232	64%
70~74才	3	4%	4	11%	7	7%						
75~79才	9	13%	2	5%	11	10%						
80~84才	21	31%	6	16%	27	26%						
85~89才	7	10%	8	21%	15	14%						
90~94才	4	6%	7	18%	11	10%						
95~99才	0	0%	2	5%	2	2%						
計	67	100%	38	100%	105	100%	14628	100%	9007	100%	23635	100%

3. 性感染症 (STD) 定点報告

STD 定点から報告される4感染症について、2010年の京都府の発生状況を年齢階級別、男女別と定点の診療科別に表6に示した。2010年1年間で、性器クラミジア感染症は444人(定点あたり19.3人)、性器ヘルペスウイルス感染症134人(定点あたり5.8人)、尖圭コンジローマ48人(定点あたり2.1人)、淋菌感染症は81人(定点あたり3.5人)の報告があり、2008年¹⁾、2009年²⁾と同程度の報告数であった。

表6. 2010年京都府性感染症定点からの患者報告数
(男女別、年齢区分別、定点医療機関診療科別)

	性器クラミジア症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭コンジ ローマ		淋菌感染症	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0才	0	0	0	0	0	0	0	0
1~4才	0	0	0	0	0	0	0	0
5~9才	0	0	0	0	0	0	0	0
10~14才	0	0	0	0	0	0	0	1
15~19才	9	58	0	8	0	0	4	5
20~24才	13	129	3	17	2	15	10	10
25~29才	13	82	2	24	1	7	8	7
30~34才	17	39	1	15	0	3	9	4
35~39才	13	31	1	15	0	7	5	2
40~44才	10	13	2	15	1	1	7	0
45~49才	6	5	0	6	1	2	8	0
50~54才	2	4	0	5	1	2	0	0
55~59才	0	0	0	6	0	0	1	0
60~64才	0	0	0	2	2	0	0	0
65~69才	0	0	0	4	0	0	0	0
70才以上	0	0	1	7	0	3	0	0
産婦人科	10	240	1	97	4	28	7	26
泌尿器科	14	1	9	0	0	0	6	0
皮膚科	59	120	0	27	4	12	39	3
合計	83	361	10	124	8	40	52	29

4感染症とも20代を中心に患者数が多かった。10代後半から30代前半の年代が占める割合は、性器クラミジア感染症81%、淋菌感染症80%と高値を示した。一方、尖圭コンジローマは58%、性器ヘルペスウイルス感染症では52%とやや少なく、40代前半まで感染者の年齢層が広がっていた。

STD 定点は産婦人科が多く受診者の性に偏りがあることから調査対象感染症の発生男女比が正確に把握されない可能性を指摘した²⁾が、受診者が比較的偏らないと考えられる皮膚科の報告例から類推すると、性器ヘルペスウイルス感染症と性器クラミジア感染症は女性に多く、淋菌感染症は男性に多いと考えられた。

謝辞

患者情報収集に尽力していただきました定点病院ならびに保健所の皆様に深謝します。

引用文献

- 1) 中嶋智子, 奥村真友美, 柳瀬杉夫. 2009. 京都府感染症情報センター 感染症発生動向調査(2008年) - 定点把握感染症. 京都府保健環境研究所年報, 54, 20-25.
- 2) 中嶋智子, 奥村真友美, 柳瀬杉夫. 2010. 2009年感染症発生動向調査(患者発生動向) - 定点把握感染症. 京都府保健環境研究所年報, 55, 45-51.